

鳥取市震災に強いまちづくり促進事業補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、鳥取市震災に強いまちづくり促進事業補助金（以下「本補助金」という。）の交付について、鳥取市補助金等交付規則（昭和42年鳥取市規則第11号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 住宅 一戸建ての住宅、共同住宅及び長屋をいい、店舗等の用途を兼ねるもの（店舗等の用に供する部分の床面積が延べ面積の2分の1未満のもの）を含む。
- (2) マンション 共同住宅のうち耐火建築物又は準耐火建築物であって、延べ床面積が1,000㎡以上であり、かつ、地階を除く階数が原則として3階以上のものをいう。
- (3) 建築物 住宅以外の建築物をいう。
- (4) ブロック塀 補強コンクリートブロック造又はれんが造、石造、コンクリートブロック造その他の組積造の塀をいう。
- (5) 耐震診断 別表第1の第1項に掲げるもののうち、いずれかの診断により行う住宅又は建築物の地震に対する安全性の評価をいう。
- (6) 耐震設計 耐震診断の結果に基づく住宅又は建築物の耐震改修を行うための設計をいう。
- (7) 耐震改修又は除却 耐震改修は、別表第1の第2項に掲げるもののうち、いずれかの方法により行う住宅又は建築物の地震に対する安全性の向上を目的とした補強又は改修の工事（本補助金の交付申請を行う時点における最新の構造耐震指標の基準を満たすために行われるもの又は木造一戸建ての住宅において当該基準を満たすために段階的に行われるものに限る。）を、除却は、木造一戸建ての住宅の除却の工事をいう。
- (8) ブロック塀耐震対策 既存ブロック塀の全部を除却又は高さを0.6m以下に除却（安全性が確認されたものに限る。）及びブロック塀を除却した範囲に行う軽量なフェンス、生垣等への改修（以下「フェンス等改修」という。）をいう。
- (9) 設計図書 建築基準法（昭和25年法律第201号）第2条第1項第12号に定める図書をいう。
- (10) 避難路 鳥取市耐震改修促進計画に位置付けた道路をいう。
- (11) 屋根瓦耐風対策 屋根瓦の落下防止措置をいう。

2 前項に定めるもののほか、この要綱における用語の意義は、建築物の耐震改修の促進に関する法律に定めるところによる。

(交付目的)

第3条 本補助金は、耐震改修促進計画に基づき、住宅、建築物及びブロック塀の耐震化の促進を図ることにより、地震による倒壊等及び強風による瓦の飛散の災害を未然に防止し、市民の安全性を確保することを目的として交付するものとする。

(対象建築物等の要件)

第4条 本補助金の交付の対象となる住宅、建築物（以下「対象建築物」という。）及びブロック塀は、次に掲げる要件のいずれにも該当するものとする。

(1) 昭和56年5月31日以前に建築されたもの又は木造一戸建ての住宅で平成12年5月31日以前に建築されたものであること。ただし、第2条第1項第8号又は第11号を行う場合を除く。

(2) 建築物の耐震改修においては、延べ面積が1,000㎡以上の建築物のうち、災害時に重要な機能を果たす建築物又は災害時に多数のものに危険が及ぶおそれのある建築物であること。

(3) 原則として交付申請時において、建築基準法第9条第1項に基づき特定行政庁から措置を命じられていないこと。

2 前項の規定によるもののほか、耐震設計、耐震改修又は除却を行う場合においては、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性が地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、若しくは崩壊する危険性が高いと評価され、又は倒壊する危険性があると評価されたものであること。ただし、木造一戸建ての住宅の耐震設計にあつては、耐震診断と同時に申請する場合を除く。また、木造一戸建ての住宅の除却にあつては、「住宅・建築物耐震改修事業を活用した旧耐震基準の木造住宅の除却における耐震診断について（技術的助言）（令和6年1月30日国住市第40号）」に示す方法によることができる。

3 木造一戸建ての住宅を除く耐震改修において本補助金の交付を複数年にわたって受ける場合にあつては、あらかじめ国土交通省中国地方整備局長から全体設計の承認を受けたものであること。

4 ブロック塀耐震対策の場合にあつては、次に掲げる要件のいずれにも該当するブロック塀（以下「危険ブロック塀」という。）であること。

(1) 高さが0.6mを超えるもの

(2) 不特定の者が通行する道路に面したもの

(3) 別表第3又は別表第4により安全対策が必要と判断されたもの

5 屋根瓦耐風対策にあつては、次に掲げる要件のいずれにも該当する住宅又は建築物であること。

(1) DID地区又は地域防災計画等で指定する区域に存するもの

(2) 令和3年12月31日以前に建築されたもの

(3) 別表第5により安全対策が必要と判断されたもの

(4) 改修後の屋根が次のいずれかに該当するもの

ア 「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン（社団法人全日本瓦工事業連盟他発行）」に基づいて施工されたものであること。ただし、これと同等に安全性を向上すると認められるものを含む。

イ 瓦葺き以外の屋根にあつては、建築基準法に規定する耐風性能を有するものであること。

（補助対象者）

第5条 本補助金は、対象建築物の耐震診断、耐震設計、耐震改修若しくは除却、ブロック塀耐震対策又は屋根瓦耐風対策を行う民間事業者に対し、交付する。

(補助対象経費等)

第6条 本補助金の交付の対象となる経費（以下「補助対象経費」という。）は、耐震診断を行う場合にあっては住宅1戸（共同住宅及び長屋にあっては1棟）又は建築物1棟あたり、耐震設計又は耐震改修を行う場合にあっては住宅1戸（マンションにあっては1棟）又は建築物1棟あたり、除却を行う場合にあっては住宅1戸あたり、ブロック塀耐震対策を行う場合にあっては1敷地あたり、屋根瓦耐風対策を行う場合にあっては1棟あたりそれぞれに要する経費とする。

2 対象建築物の耐震診断、耐震設計、耐震改修又は除却、ブロック塀耐震対策及び屋根瓦耐風対策に係る補助対象経費の限度額は、別表第2に定めるものとする。

(補助金の算定等)

第7条 本補助金は、次の各号に掲げる区分に応じて予算の範囲内で交付する。

(1) 耐震診断 補助対象経費に3分の2を乗じて得た額（1,000円未満の端数は、これを切り上げる。）

(2) 耐震設計 次に掲げる場合に依り、それぞれ次に掲げるところにより算定した額（1,000円未満の端数は、これを切り上げる。）

ア 木造一戸建ての住宅 補助対象経費に2分の1を乗じて得た額

イ 共同住宅又は長屋 補助対象経費に2分の1を乗じて得た額（1棟あたり2,000,000円を限度とする。）。ただし、マンションについては補助対象経費に3分の2を乗じて得た額とする。

ウ 建築物 補助対象経費に3分の2を乗じて得た額

(3) 耐震改修 次に掲げる場合に依り、それぞれ次に掲げるところにより算定した額（1,000円未満の端数は、これを切り上げる。）

ア 木造一戸建ての住宅 補助対象経費に5分の4を乗じて得た額。ただし、令和2年度までに耐震設計の補助を受けたものについては補助対象経費に100分の23を乗じて得た額とする。

イ 共同住宅又は長屋 補助対象経費に5分の4を乗じて得た額（1棟あたり4,200,000円を限度とする。）。ただし、マンションについては補助対象経費に100分の23を乗じて得た額とする。

ウ 建築物 補助対象経費に100分の23を乗じて得た額

(4) 除却 木造一戸建ての住宅 補助対象経費に100分の23を乗じて得た額（1,000円未満の端数は、これを切り上げる。）

(5) ブロック塀耐震対策 次に掲げる場合に依り、それぞれ次に掲げるところにより算定した額（1,000円未満の端数は、これを切り上げる。）

ア 除却の場合 補助対象経費に3分の2を乗じて得た額（避難路沿いの危険ブロック塀は300,000円、避難路沿い以外のは150,000円を限度とする。ただし、基礎を併せて除却する場合は、避難路沿いの危険ブロック塀は600,000円、避難路沿い以外のは300,000円を限度とする。）

イ フェンス等改修の場合 補助対象経費に3分の1を乗じて得た額（避難路沿いの危険ブロック塀は200,000円、避難路以外沿いのは100,000円を限度とする。）

(6) 屋根瓦耐風対策 補助対象経費に 100 分の 23 を乗じて得た額 (1,000 円未満の端数は、これを切り上げる。ただし、690,000 円を限度とする。)

(交付申請)

第 8 条 規則第 4 条の規定により、本補助金の交付の申請をしようとする者は、補助金交付申請書を市長が別に定める日までに市長に提出しなければならない。

2 前項の補助金交付申請書に添付すべき書類は、次に掲げるものとする。

(1) 規則第 4 条第 1 号の事業計画書 (様式第 1 号)

(2) 規則第 4 条第 2 号の収支予算書 (様式第 2 号)

(3) その他市長が必要と認める書類

3 第 1 項に規定する申請をするに当たって、本補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額 (補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法 (昭和 63 年法律第 108 号) 及び地方税法 (昭和 25 年法律第 226 号) の規定により仕入れに係る消費税額及び地方消費税額として控除できる部分の金額に補助対象経費に占める補助金の割合を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。) を減額して申請しなければならない。ただし、申請時において当該消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

(承認を要しない変更)

第 9 条 規則第 9 条第 1 項の市長が別に定める変更は、次に掲げるもの以外の変更とする。

(1) 本補助金の増額

(2) 本補助金の 2 割を超える減額

(着手届の提出)

第 10 条 補助対象事業に着手したときは、規則第 10 条第 1 項第 3 号の市長が別に定める場合に該当し、着手届は要しない。

(実績報告)

第 11 条 規則第 12 条の規定による補助事業等実績報告書は、原則として補助事業完了後 1 か月を経過する日又は本補助金の交付の決定があった日の属する年度の 3 月 15 日のいずれか早い日までに市長に提出しなければならない。

2 前項の実績報告書に添付すべき規則第 12 条第 1 号及び第 2 号に定める書類は、それぞれ様式第 1 号及び様式第 2 号によるものとする。

3 第 1 項に規定する実績報告書を提出するに当たって、消費税等仕入控除税額が明らかでない場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(補助事業が複数年にわたる場合の年度終了実績報告書)

第 12 条 本補助金の交付を受ける民間事業者の補助事業が複数年にわたる場合は、各年度において実施した補助事業の実績を 3 月 31 日までに、進捗状況 (年度終了) の実績報告書 (様式第 3 号) を添えて市長に提出しなければならない。

(消費税等仕入控除税額の確定に伴う補助金の返還)

第 13 条 補助対象事業完了後に消費税及び地方消費税の申告により消費税等仕入控除税額が確定した場合には、速やかに消費税等仕入控除税額確定報告書 (様式第 4 号) を市長に提出しなければならない。

2 市長は、前項の報告書の提出があった場合には、消費税等仕入控除税額の全部又は一部の返還を命ずることができる。

(雑則)

第 14 条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、都市整備部長が別に定める。

附則

(施行期日等)

1 この要綱は、平成 19 年 10 月 22 日から施行し、平成 19 年度の補助事業から適用する。

(経過措置)

2 この要綱の施行前に改正前の鳥取市震災に強いまちづくり促進事業補助金交付要綱の規定により交付決定が行われた補助事業については、なお従前の例による。

附則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 23 年 1 月 11 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）前に改正前の鳥取市震災に強いまちづくり促進事業補助金交付要綱の規定により申請が行われた補助事業については、なお従前の例による。

(額の算定の特例)

3 施行日から平成 23 年 3 月 31 日までの間に交付決定を行う本補助金の額の算定については、第 7 条第 1 項第 2 号中「合計額」とあるのは、「合計額に補助対象経費に 100 分の 77 を乗じて得た額（300,000 円を限度とする。）を加えた額（補助対象経費が、1,500,000 円以上 2,000,000 円未満の場合は 100,000 円、2,000,000 円以上の場合は 200,000 円、をその額に加えた額）」とする。

附則

この要綱は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

附則

この要綱は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附則

この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この要綱は、平成 26 年 7 月 30 日から施行する。

附則

この要綱は、平成 27 年 5 月 11 日から施行する。

附則

この要綱は、平成 29 年 5 月 1 日から施行する。

附則

この要綱は、平成30年5月18日から施行する。

附則

この要綱は、平成30年11月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和5年5月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和6年5月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和7年5月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和8年5月1日から施行する。

別表第1（第2条関係）

1 耐震診断

- (1) 建築基準法施行令（昭和25年政令第338号）第3章第8節に規定する構造計算によるもの
- (2) 建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための基本的な方針（平成18年国土交通省告示第184号。以下「基本方針」という。）別添第一に示すもの
- (3) 国土交通省住宅局監修の「木造住宅の耐震診断と補強方法（木造住宅の耐震精密診断と補強方法 改訂版）」に示す一般診断法又は精密診断法によるもの
- (4) 前3号に掲げるもののほか、これらと同等以上の評価精度を有すると認められるもの

2 耐震改修

- (1) 建築基準法第19条及び第20条の規定に適合するように行われるもの
- (2) 基本方針別添第二に示すもの
- (3) 前2号に掲げるもののほか、これらと同等以上に安全性を向上させると認められるもの

別表第2（第6条、第7条関係）

- | |
|---|
| <p>1 耐震診断 次の各号に掲げる区分に応じて算定するものとする。</p> <p>(1) 一戸建ての住宅 次のア又はイに掲げる額又は耐震診断に要する経費のいずれか低い額</p> <p>ア 木造一戸建ての住宅 1戸当たり 170,000 円（当該一戸建ての住宅の設計図書がない場合にあつては 204,000 円）</p> <p>イ 非木造一戸建ての住宅 1戸当たり 204,000 円（第二次診断法以上の診断法に限る。）</p> <p>(2) 共同住宅若しくは長屋又は建築物 3,000,000円又は1㎡当たり4,580円を限度として当該面積を乗じて得た額と耐震診断に要する経費のいずれか低い額</p> <p>2 耐震設計 次の各号に掲げる区分に応じて算定するものとする。</p> <p>(1) 木造一戸建ての住宅 320,000 円又は耐震設計に要する経費のいずれか低い額</p> <p>(2) 共同住宅又は長屋 320,000 円又は耐震設計に要する経費のいずれか低い額。ただし、マンションにあつては 3,000,000 円又は1㎡当たり4,580円を限度として当該面積を乗じて得た額と耐震設計に要する経費のいずれか低い額。</p> <p>(3) 建築物 3,000,000円又は1㎡当たり4,580円を限度として当該面積を乗じて得た額と耐震設計に要する経費のいずれか低い額</p> <p>3 耐震改修又は除却 次の各号に掲げる区分に応じて算定するものとする。</p> <p>(1) 木造一戸建ての住宅 1,750,000 円又は耐震改修に要する経費のいずれか低い額。ただし、令和2年度までに耐震設計の補助を受けたものについては、4,254,000 円又は耐震改修に要する経費のいずれか低い額。</p> <p>(2) 木造一戸建ての住宅の除却 4,254,000 円又は除却に要する経費のいずれか低い額</p> <p>(3) 共同住宅又は長屋 1,750,000 円又は耐震改修に要する経費のいずれか低い額。ただし、マンションにあつては 18,000,000 円又は耐震改修に要する部分1㎡当たり51,700円を限度とし、当該面積を乗じて得た額と耐震改修に要する経費のいずれか低い額</p> <p>(4) 建築物 18,000,000円又は耐震改修に要する部分1㎡当たり57,000円を限度とし、当該面積を乗じて得た額と耐震改修に要する経費のいずれか低い額</p> <p>4 ブロック塀耐震対策 次の各号に掲げる区分に応じて算定するものとする。</p> <p>(1) 除却 1m当たり18,000円（基礎を併せて除却する場合は、36,000円/m）を限度とし、塀の延長を乗じて得た額と除却に要する経費のいずれか低い額</p> <p>(2) フェンス等改修 1m当たり25,000円を限度とし、フェンス等の延長を乗じて得た額と改修に要する経費のいずれか低い額</p> <p>5 屋根瓦耐風対策 1㎡当たり30,000円を限度とし、屋根の面積を乗じて得た額と対策に要する経費のいずれか低い額</p> |
|---|

別表第3（第4条関係）

補強コンクリートブロック塀の点検表（鉄筋が入っていない場合は組積造の塀の点検表を使用）

点検項目	点検内容	点検結果	
		適合	不適合
1 高さ	2.2m以下	はい	いいえ
2 壁の厚さ	高さ2mを超える塀で15cm以上又は高さ2m以下で10cm以上	はい	いいえ
3 鉄筋	壁頂、基礎には横に、壁の端部及び隅角部には縦それぞれ径9mm以上の鉄筋が入っている	はい	いいえ
	壁内に径9mm以上の鉄筋が縦横80cm以内の間隔で入っている	はい	いいえ
4 控壁(高さが1.2mを超える塀の場合)	長さ3.4m以内ごとに、径9mm以上の鉄筋が入った控壁が塀の高さの1/5以上突出してある	はい	いいえ
5 基礎	丈が35cm以上で根入深さが30cm以上の鉄筋コンクリート造の基礎がある	はい	いいえ
6 傾き、ひび割れ	全体的に傾いていない、又は1mm以上のひび割れがない	はい	いいえ
7 ぐらつき	人の力で簡単にぐらつかない	はい	いいえ
8 その他	塀が土留め壁を兼ねていない、または玉石積み擁壁等の上でない	はい	いいえ
評価	8項目のうち1つでも不適合があれば、コンクリートブロック塀の安全対策が必要です		
補助金対象確認			
確認項目	確認内容	補助対象	補助対象外
位置確認	不特定の者が通行する道路に面したもの	はい	いいえ
高さ確認	0.6mを超えるもの	はい	いいえ
<p>上記のとおり報告します。</p> <p>年 月 日</p> <p>報告者（建築士又はブロック塀診断士）</p> <p>資格（ ）建築士（ ）登録第 号</p> <p>ブロック塀診断士 第 号</p> <p>住所</p> <p>氏名 ㊟</p> <p style="text-align: center;">（自署の場合は押印不要）</p>			

別表第4（第4条関係）

組積造の塀の点検表

点検項目	点検内容	点検結果	
		適合	不適合
1 高さ	1.2m以下	はい	いいえ
2 壁の厚さ	各部分の厚さがその部分から壁頂までの垂直距離の1/10以上ある	はい	いいえ
3 控壁	長さ4m以内ごとに壁面からその部分における壁の厚さの1.5倍以上突出している、又は壁の厚さが必要寸法の1.5倍以上ある	はい	いいえ
4 基礎	根入深さが20cm以上ある	はい	いいえ
5 傾き、ひび割れ	全体的に傾いていない、または1mm以上のひび割れがない	はい	いいえ
6 ぐらつき	人の力で簡単にぐらつかない	はい	いいえ
7 その他	塀が土留め壁を兼ねていない、又は玉石積み擁壁等の上でない	はい	いいえ
評価	7項目のうち1つでも不適合があれば、組積造の塀の安全対策が必要です		
補助金対象確認			
確認項目	確認内容	補助対象	補助対象外
位置確認	不特定の者が通行する道路に面したもの	はい	いいえ
高さ確認	0.6mを超えるもの	はい	いいえ
<p>上記のとおり報告します。</p> <p>年 月 日</p> <p>報告者（建築士又はブロック塀診断士）</p> <p>資格（ ）建築士（ ）登録 第 号</p> <p>ブロック塀診断士 第 号</p> <p>住所</p> <p>氏名</p> <p style="text-align: right;">Ⓜ</p> <p style="text-align: center;">（自署の場合は押印不要）</p>			

鳥取市震災に強いまちづくり促進事業収支予算書・決算書

1 収入の部

(単位：円)

区分	予算額	備考
補助金		
その他（個人負担金等）		
合計		

2 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	備考
事業経費		
合計		

年 月 日

鳥取市長 様

申請人 住 所
(所有者) 氏 名
電話番号

補助事業等実績進捗状況（年度終了）実績報告書

年 月 日付け鳥取市指令受都指第 号をもって、交付決定のありました鳥取市震災に強いまちづくり促進事業の補助金実績（進捗状況）について、鳥取市補助金等交付規則第12条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業等の施行場所
- 2 補助事業等の実施期間
- 3 補助事業等の実施方法
- 4 補助金等の交付決定額とその精算額
- 5 添付書類
 - (1) 事業報告書
 - (2) 収支決算書
 - (3) 補助事業等の経過又は成果を証する書類、写真等

鳥取市長 様

住 所
氏 名

消費税等仕入控除税額確定報告書

年 月 日付け鳥取市指令受都指第 号をもって、交付決定のありました鳥取市震災に強いまちづくり促進事業補助金について、本補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定しましたので、次のとおり報告します。

記

- 1 補助金の交付決定額 円
- 2 補助金の交付申請時又は実績報告時に減額した消費税等仕入控除税額 円
- 3 消費税及び地方消費税の申告により確定した消費税等仕入控除税額 円
- 4 補助金返還相当額（3の額から2の額を差し引いた額） 円